

# 福祉サービス第三者評価結果

事業所名 五反田保育園 分園

発効：2019年2月13日（2022年2月12日まで有効）

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

## 公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

### 事業所基本事項

フリガナ	ゴタンダホイクエン ブンエン
事業所名 (正式名称を記載)	五反田保育園 分園
事業所種別	保育所
事業所住所 最寄駅	〒252-0815 神奈川県藤沢市石川3-30-12 JR東海道線「辻堂」駅よりバス「二番構停留所」下車徒歩10分
事業所電話番号	0466-86-6558
事業所FAX番号	0466-86-6553
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 伊澤昭治
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人 湘南杉の子福祉会 法人代表者氏名 理事長 伊澤憲二
URL	
e-mail	
問合せ対応時間	8:30~13:00

### 事業所の概要1

開設年月日	平成16年4月1日
定員数	97名
都市計画法上の用途地域	住宅地
建物構造	鉄骨外壁サイディング一部2階建て
面積	敷地面積(528)m <sup>2</sup> 延床面積(783.2)m <sup>2</sup>

### 事業所の概要2(職員の概要)

総職員数	28名
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (1名) 保育士 (20名) 栄養士 (1名) 事務員 (2名) その他 (調理員3名、用務員1名)

### 事業所の概要3(受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	6か月～	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	無	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

### 保育の方針

目標:「思いやりのある元気な子」 基本理念:「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」
---

## 公益社団法人神奈川県介護福祉士会 第三者評価結果

### 1. 総合コメント

#### 総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等）

- 五反田保育園分園は、本園から徒歩7～8分の住宅街の中にあり、0歳児から5歳児までの保育に携っている。法人の保育理念に、「①子どもの健全な成長と安全を保障する、②子どもの発達を保障する望ましい物的・人的環境を準備する、③利用者と共に子どもの成長を喜びあえる信頼関係を築く、④社会福祉並びに児童福祉の精神に基づくサービスの提供」を置き、「思いやりのある元気な子」の育成を目指し、保育を実践している。
- 職員の基本行動マニュアルや保護者とのコミュニケーションの取り方などをまとめた園独自の「ステートメントブック」を作成し、全職員に配布している。「ステートメントブック」は、法令などの改正に合わせ、随時内容を修正している。「ステートメントブック」は貸与としており、職員は大切に扱っている。
- 「職員全体で一人ひとりの子どもをみる」という園の基本方針に沿い、登園降園時には自分の担当以外の子どもでも、今日の様子を保護者に伝えている。保護者アンケートでも、「担任以外の先生も声をかけてくれる、子どもの様子を伝えてくれる」という声が多くあがっていた。
- 毎年5月頃に、2歳から5歳の縦割り保育のチーム(8チーム)を決め、各チームが年間計画を立て、月2回の「みんなの日」の中で、それぞれのテーマに基づいて活動している。「みんなの日」には、チームで食事を摂り、ゲームや散歩などを楽しむとともに、クリスマスや発表会では、チームで演出の内容を考えて発表している。
- 天気の良い日は、近くの公園に出かけ、子どもたちは虫取りや落ち葉拾い、身体を使った遊びなどを行い、自然に親しんでいる。園外保育では、一人ひとりの子どもの様子を写真に撮り、コメントを付けて貼り出している。保護者から、「子どもの様子がとてもよくわかって良い」と、とても好評である。
- 幼児クラスでは自分で食事の盛り付けをして、食べる量を自分で確認するようにしている。食事時には当番の子どもが食事の挨拶や配膳、片付け、掃除を行っている。2歳児から5歳児は、枝豆や二十日大根、なす、ジャガイモなどを栽培し、収穫して自分たちで料理をしている。4、5歳児の「ワクワクナイト」のイベントでは、収穫したジャガイモを使って子どもたちがカレーを作り、花火やお化け屋敷などを行って、夏の夜を楽しんでいる。
- ダンボールを活用したキッチンセットや、牛乳パックを使った玩具など、子どもたちが興味を持ち、遊びたいと思うものを、保育士が手作りで作成して用意している。子どもたちは自分たちも廃材を利用してマイクを作ってインタビューごっこをしたり、ダンボールで玩具や室内の飾りを作って楽しんでいる。
- 外部講師を招いて、体力づくりやリトミックを行っている。リトミックでは、いろいろな音を聞きながら、走る、歩く、止まる、動物に変身するなど、子どもたちは、音楽に合わせて身体を動かしている。また、日常の遊びの中から「劇遊び」に発展させ、子どもたちは発表会で保護者に劇を披露している。
- 第三者評価の受審を通して、保育の活動内容は保育日誌に十分に記録しているが、子どもたちがどう反応し、どのように感じていたかの記録が少ないことに気付いた。記録の書き方について、職員会議で話し合いを行い、改善につなげている。
- 今回、本園に続いて福祉サービス第三者評価を受審している。自己評価に真剣に取り組むことで、提供する保育の質の向上に努めている。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員の基本行動マニュアルや保護者とのコミュニケーションの取り方などをまとめた「ステートメントブック」を作成し、全職員に配布している。「ステートメントブック」は貸与とし、全職員が大切に扱っている。</li> <li>○子どもたちに対して、性差による区別は行わず、外国籍の子どもや保護者にも普通に接している。日本語が苦手な保護者に向け、配布物にはルビを振り、難しい内容の事柄については、知人に通訳を依頼している。</li> <li>○子どもの虐待予防や早期発見については、市の子育て支援課や児童相談所、市社協、学校などと連携し、副園長がネットワーク会議に参加して内容を検討している。</li> <li>○「個人情報保護規程」を整備し、職員会議の場で個人情報の取り扱いについて職員に周知している。日常の保育場面では、個人的な内容は第三者に話が聞かれないよう、事務室や個室で行う他、氏名などが特定されるような言い回しには注意している。</li> <li>○子どもたちのプライバシーの確保のため、実習生には事前にオリエンテーションを実施し、子どもたちの名前のメモや写真撮影の禁止について説明している。</li> </ul>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭との連絡、情報交換は、登園降園時に保護者とのコミュニケーションを密に取り、また、「育児ノート」や「連絡ノート」を活用し、0、1歳児は毎日、2歳児は週1回、3歳児以上は必要に応じて、保護者と情報交換を行っている。</li> <li>○0歳児には、複写式の「育児ノート」を使用して、保護者との情報交換の内容を、いつでも確認できるようにしている。</li> <li>○懇談会は年2回(4月、1月)、個人面談は年1回(11月)行い、保護者からの園に対しての希望や意向を把握している。懇談会の欠席者には、内容を貼りだして確認できるようにしている。</li> <li>○保護者からの意見・要望と苦情は特に区別せず受け止めている。個人的なものは個別に対応し、全体に回答した方がよいものについては、プリントを配ったり、掲示板に掲示して対応している。</li> </ul>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「苦情解決窓口要綱」を整備し、苦情受付から解決までの手順を定めている。玄関に苦情解決窓口のポスターを掲示して、苦情解決責任者や苦情受付担当者名、第三者委員名や連絡先を明記している。</li> <li>○「冷房・暖房の使用マニュアル」や「危険物管理マニュアル」を整備して、室内環境を整えている。危険物は事務室で管理し、管理状況を「点検記録簿」に記録している。</li> <li>○「服薬管理マニュアル」や「与薬に関する主治医指示書」に基づき、与薬が必要な子どもに対応している。現在、薬を預かるケースはとでも少なくなっている。</li> <li>○子どものけがへの対応は、「ステートメントブック」の「事故の対応について」に基づき対応している。基本的には通院対応が必要な場合は「園児災害報告書」に記録し、通院が不要な場合は「インシデント報告」にまとめているが、明確には区別していない。現在、本園と合同の健康安全委員会にて、インシデント報告の書式の見直しを行っている。</li> <li>○市保健所管内感染症サーベイランス情報や感染症の情報を入手し、掲示板に掲示して保護者に知らせている。また、保健委員会より、感染症に関するプリントを保護者に配布している。</li> <li>○避難訓練を毎月実施する他、防犯訓練(不審者訓練)も毎月行っている。地震を想定した引き渡し訓練も年1回行っている。</li> </ul>

4	地域との交流・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣の小学校や地区老人会と、年長児が定期的に交流、訪問を行っている。地区老人会の招待を受け、尺八やダンスなどを見学するとともに、卒園式の予行演習には園に地区老人会を招き、ゲームやこま回し、カルタなどを一緒に楽しんでいる。</li> <li>○園の納涼会や誕生会などの行事には、地域に参加を呼びかけている。卒園していった子どもたちや近隣の方々が多く参加している。</li> <li>○地域の子育て家庭に向け、行事の招待や子育て相談を行っているが、現時点では、入園相談が中心になっている。</li> </ul>
5	運営上の透明性の確保と継続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ステートメントブック」に保育理念や保育指針を示すとともに、事務室内に保育理念を掲示し、毎週月曜日の朝礼時に、職員が保育理念を唱和している。</li> <li>○行事の終了時には、職員全員が揃って反省会を行い、反省点を担当職員がまとめて回覧し、次年度につなげている。また、全職員が「チャレンジシート」に各自の目標を掲げ、年度末に振り返りを行っている。園長による職員の個人面接も、毎年行っている。</li> <li>○園の運営、事業内容について、地域からの理解を得られるように、ホームページに園の情報を掲載している。</li> <li>○保護者に「年間行事予定表」を4月に配布して、保育参観の日程を伝えている。開催2ヶ月前には、玄関に掲示したり、毎月発行する「えんだより」や「くらすだより」で周知を図っている。</li> </ul>
6	職員の資質向上促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「年間研修予定表」を作成し、計画的に外部研修に参加している。また、本園と合同で、救急法などの内部研修も企画、実施している。職員からの自主的な研修参加希望も、できるだけ本人の希望を入れるようにしている。</li> <li>○外部研修参加後の「研修復命書」は、1週間職員の休憩室に置き、全員が内容を周知できるようにしている。年1回(9月の土曜日)、本園と合同で全職員を対象に研修報告会を開催している。</li> <li>○「実習生受け入れについて」にて、実習生受け入れの基本的考え方を示し、実習担当者も位置付けている。</li> </ul>

## 2. 評価項目に基づく評価の結果

### 大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

<b>大項目 1 全体（調査確認事項全 80 事項）を通してのサービスの達成状況</b>	<b>96%</b>
--	------------

#### 大項目 1 の内容 (概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目 2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士との                      かかわりにおいて、子                      どもの情緒の安定をは                      かることや、順調な発                      育・発達を促すため                      にどのような取り組み                      をしていますか</p>	<p>①一人ひとりの状況を把握する。                      ②一対一のスキンシップをとり、安定を図る。                      ③子どもの気持ちに寄り添い、コミュニケーションをとりながら信頼関係を築くようにする。</p>	<p>①一人ひとりの状況を把握し、登園後さみしくてドアまで行き、ぐずっていた子どもに対して、保育士がバギーに乗せて落ち着かせたりしていること、子どもは眠くて大きな声で大騒ぎをしていたが、保育士が抱っこ紐で抱っこして話しかけ、入眠を促したりしていることを、「0歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                      ②入園して間もない子どもが、初めての午睡でなかなか寝付けない時には、保育士が一対一で対応し、安心して入眠できるようにしていることを、「0歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                      ③保育士が子どもたちに誘いかけ、鬼ごっこをして遊んだりしていること、散歩後に疲れてしまった子どもは、保育士が抱っこして話しかけ、コミュニケーションを多くとりながら対応していることを、「0歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわり                      において、個の違いを                      認めあうことや他者と                      自分を大切にすること                      をもてるようにするた                      めにどのような組み                      組みをしていますか</p>	<p>①出来ること、得意分野を褒め、一人ひとりを受け入れていく。                      ②話を代弁する。友達の良い所を伝える。                      ③気づくような働きかけをしていく。</p>	<p>①一人ひとりを受け入れ、普段は他の子どもと一緒に行動できない子どもが、おやつを取りに行くのが一番だった時に「今日はすごいね」と声かけし、自信につながるように対応していることを、「4歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                      ②子どもたちだけでは解決できないトラブルがあった時、保育士が話を整理して相手の気持ちを代弁し、子どもたちが自ら考えていくことができるように働きかけていることを、「5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                      ③子どもたち同士のケンカなどの後、友達が今どう思っているか、保育士から「どうだと思う？」と声かけして、子どもたち自身が気づくことができるように促していることを、「5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

<p>子どもと社会とのかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①みんなの日(異年齢児交流活動)。                  ②当番活動、お手伝いをする。                  ③E地区老人会と年長児の交流。</p>	<p>①毎年5月頃に、2歳から5歳の縦割り保育のチーム(8チーム)を決めていること、各チームが年間計画を立て、月2回「みんなの日」を設け、それぞれのテーマに基づいて活動していること、5月の初めには朝顔の種をまき、チームで育てていること、最初は保育士から離れられない2、3歳の子どももいるが、交流を深める中で、異年齢児との関わりを楽しんでいること、「みんなの日」にはチームごとに食事し、クリスマスや発表会などでもチームで内容を考えて発表していることを、「みんなの日保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ②3歳児からは、各クラスで毎日、当番を決め、食事の挨拶や配膳、片付け、掃除などを行っていることを、「5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ③7～8年前から、E地区老人会から5歳児が招待を受け、尺八やダンスなどを見学していること、卒園式の予行演習には、園に老人会を招き、ゲームやこま回し、カルタなどを一緒に楽しんでいることを、「5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①絵本、紙芝居の読み聞かせ。                  ②手遊び、リズム遊び、手話等を通して楽しむ。                  ③ごっこ遊び等でのやり取りを楽しむ。</p>	<p>①各クラスとも午睡前に必ず絵本の読み聞かせや紙芝居を行っていること、各クラスに絵本を置き、子どもたちは自由に手に取っていること、5歳児は市の図書館主催の「お話しの会」に毎月参加し、帰りに本を借りていることを、「5歳児保育日誌」や訪問調査時の子どもたちの様子で確認した。                  ②月2回の「みんなの日」には、毎月テーマや歌を決め、その歌を手話でみんなで歌えるように楽しんでいることを、「みんなの日保育日誌」や「みんなの日年間計画」で確認した。                  ③ペープサートを用いて楽しみ、それを劇遊びに発展させて楽しんでいることを、「2歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>



<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①喃語を理解し、言葉にしてあげる(気持ちを代弁する)。                  ②人前で発表する機会を持つ(インタビュー等)。                  ③絵本、紙芝居の読み聞かせや、劇遊び等のセリフのやり取りを楽しむ。</p>	<p>①保育士が子どもたちの気持ちを代弁し、「もぐもぐ、かみかみして食べようね」など、声かけをしていることを、「1歳児月間指導計画」や聴き取りで確認した。                  ②「朝の会」では、夏休みの思い出を一人ずつ皆の前で発表していること、子どもたちは新幹線に乗ったことなどを一所懸命思い出して話していたこと、年度末の発表会では、子どもたちは舞台の上で大きな声で話すことを意識しながら頑張っていることを、「5歳児保育日誌」や昼食時の当番の様子で確認した。                  ③「赤い風船」の絵本を読み、チームごとに風船の色を決め、話し合いながらやり取りを楽しんだりしていることを、「4歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①発表会や運動会等の行事。                  ②リズムや体操、ダンス。                  ③年齢にあった様々な素材で十分に遊ぶ。</p>	<p>①発表会では、「みんなの日」の縦割り保育のチームも、何をするかを子どもたちで考えて発表していること、絵本や遊びの中から、劇遊びに発展させて発表していること、練習は盛り上がり、子どもたちは楽しんで行っていること、運動会は天気の良い日は近くの公園で行っていることを、「みんなの日保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ②3、4、5歳児のリズムは、河合音楽リズムの先生の指導を受けていること、いろいろなリズムを経験し、音楽に合わせて身体を動かしていることを、「3、4、5歳児リズム保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ③小麦粉をこねる、寒天をこねる、片栗粉をこねてスライムを作るなど、いろいろな物の感触を楽しんでいること、年長児はダンボールでおもちゃや室内装飾を製作して飾っていることを、「1、2歳児保育日誌」や訪問調査時の保育室の様子で確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなと一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①ままごとやごっこ遊び。                  ②グループ製作(廃材製作を含む)。                  ③リトミック、劇遊びの発表。</p>	<p>①保育士手作りのキッチンセットやテーブルを出し、室内でままごと遊びを行っていること、子どもたちは友達同士で食べる真似などをして遊んでいることを、手作りのダンボール製のキッチンセットや「1歳児保育日誌」で確認した。                  ②「みんなの日」のチームで、ハロウィンパーティーの飾りつけや仮装の道具作りを行っていること、ダンボールでカボチャを、牛乳パックでお化けを製作し、骨を描いて身体に貼り付けて、チームごとに盛り上がっていたことを、「みんなの日保育日誌」やハロウインの飾りで確認した。                  ③リトミックで身体を動かし、日常の遊びの中から劇遊びに発展させ、発表会で披露していること、また、夏祭りは毎年テーマを決め、ダンボールやトイレットペーパー、ストローなどで、おみこしを作り、夏祭りでは子どもたちがおみこしを担いで楽しんでいることを、「5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①リトミック、動物変身、体操。                  ②子どもが興味を持ち、遊びたいと思う玩具を準備する(手作り玩具)。                  ③季節に合った園外保育。</p>	<p>①リトミックでは、いろいろな音を聞きながら、走る、歩く、止まる、動物に変身するなどしていること、子どもたちは音に合わせて、いろいろな動物に上手に変身していることを、「1歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ②ままごと遊びは、保育士手作りのキッチンセットを使っていること、牛乳パックを使ったおもちゃなど、子どもたちが遊びたいと思うおもちゃを準備していること、4歳児はマイクを自分たちで作り、インタビューごっこをしていることを、「4歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ③天気が良い日は、近くの公園などに出かけ、虫取りや落ち葉拾いなど、子どもたちが自然に親しんでいることを、「写真」や聴き取りで確認した。</p>

<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 戸外遊び、園外保育等で自然を感じるようにする。                  ② 飼育、栽培。                  ③ 戸外、部屋、廊下、階段等、様々な場所で探索活動をさせていく。</p>	<p>① 天気の良い日は近くの公園に行き、身体を使って遊んだり、季節の変化を感じたり、子どもたちはいろいろな体験をしていることを、「写真や」訪問調査時の園外散歩の様子で確認した。                  ② 公園で釣ってきたザリガニや、カブトムシを飼育し観察していること、2歳児は枝豆、3歳児は二十日大根、4歳児はなす、5歳児はジャガイモを植え、収穫し、自分たちで料理をしていること、7月上旬に行う4、5歳児の「ワクワクナイト」というイベントでは、収穫したジャガイモを使って子どもたちがカレーを作り、花火やお化け屋敷などを行って夏の夜を楽しんでいることを、「2、3、4歳児保育日誌」やカブトムシの飼育の様子で確認した。                  ③ 0歳児は廊下をハイハイして他のクラスに行ってみるなど、行動範囲が広がるように働きかけていることを、「0歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 楽しく食べる雰囲気づくりをする。                  ② 栽培して物を調理する。食材の役割を伝える。                  ③ 自ら出来た時(食べた時)に褒める。励ます。</p>	<p>① 献立は栄養士が毎月作成していること、食事は自分が食べられるだけをよそい、お代わりも自由にできるようにしていること、食事中は音楽をかけ、楽しく食べる雰囲気作りをしていること、また月1回の誕生会では、誕生者席をきれいに飾り、皆でケーキやごちそうを食べてお祝いしていることを、「月間献立表」や訪問調査時の昼食の様子などで確認した。                  ② 4歳児は自分たちで栽培したなすを収穫し、なすのピザやみそ汁などを作って食べていること、また食事に今日はどんな素材が入っているか、身体のどんなところに役立っているかを皆で話し合っていることを、「食育だより(からだにいいもの取り入れよう)」や聴き取りで確認した。                  ③ 普段の食事では食べたがらないが、自分たちの栽培した野菜の料理などはよく食べること、保育士は食べられたことを褒め、励ますように関わっていることを、「3歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①必要性を分かりやすく伝えていく。 ②紙芝居、絵本等を活用して伝える。一つひとつ丁寧に伝えていく。 ③出来たこと、やろうとする意欲を褒める。</p>	<p>①子どもたちが生活習慣を身に付けることができるよう、保育士は丁寧に関わっていること、「みんなの日」では、年長児が年少児に食事を食べさせてあげる場面も見られ、保育士は「全部食べられたよ。偉かったね」などと声かけしていることを、「5歳児指導計画」や「みんなの日保育日誌」で確認した。 ②虫歯予防デーでは、虫歯の本を読み聞かせていること、その後にハブラシやコップを製作し、歯磨きごっこをして歯磨きの大切さを伝えていることを、「4歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。 ③一人ひとりを受け入れ、普段は他の子どもと一緒に行動できない子どもが、おやつを取りに行くのが一番だった時に「今日はすごいね」と声かけし、自信につながるように対応していることを、「4歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
---	---	---

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①子どもの感性や発見を大事にして伸ばしていく。                  ②体力づくり。                  ③縦割り保育や誕生会、季節ごとの行事。</p>	<p>①折り紙でテントウムシを作った時、子どもから「テントウムシのお家はどんなかな。ベッドあるのかな」と呟いた言葉を大切に、「えんだより」の「つぶやき」に載せたりしていることを、「えんだより」や「5歳児保育日誌」で確認した。                  ②月2回、体育指導の先生を招き、体力作りをしていること、保育士も指導を受け、普段の保育に反映していることを、「4歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ③毎月の誕生会には、特別メニューとして、おやつケーキを自分でデコレーションして食べたり、お楽しみメニューを提供していること、「みんなの日」の縦割り保育では、大きい子どもが小さい子どもの面倒をみたり、小さい子どもは上の子の真似をして、お互いの成長に大きな影響を与えていることを、「5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①無理なく個々のペースに応じた目標設定、対応。                  ②家庭との連携、心理士との連携。                  ③長時間保育では、補食の提供。</p>	<p>①3～5歳児クラスに8人ほど、障害があるなど気になる子どもがおり、それぞれのペースに応じた対応をしていること、特に3歳児クラスは職員2人体制だが、保育や食事場面などに手がかかるため、3人体制で対応していることを、「3歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ②気になる子どもは専門の心理士と連携し対応していること、保護者が自分の子どもの障害を認められないケースなど、心理士と相談し、保護者との面接を行っていること、また外国籍の子どもがおり、子どもたちは日本語は不自由ではないが、保護者が不自由という方が多いため、「えんだより」などの配布物はすべてルビを振っていること、また重要なことは知人に通訳を依頼していることを、「3歳児保育日誌」やルビを振った「えんだより」で確認した。                  ③長時間保育を利用する子どもが3名ほどいること、ジャムサンドやおにぎり、お菓子などの補食を提供していることを、「延長保育時補食について」や聴き取りで確認した。</p>

<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>①離乳食等、個々に応じて対応。                  ②除去食の提供。                  ③報告、連絡、相談をしっかりと行う。</p>	<p>①離乳食は個々の子どもの状態に合わせて対応しているが、現在は皆、幼児食に移行していること、外国籍で宗教上の問題で豚肉が食べられない子どもがいるが、鶏肉に代えて提供していることを、期別の「離乳食献立表」や聴き取りで確認した。                  ②アレルギーの子どもは現在はいないこと、以前に卵アレルギーの子どもがいたが、献立を代えて提供したことを、聴き取りで確認した。                  ③保育時、体調が悪いような子どもは、保育士間で連絡を十分に取合い、様子を見ながら対応していること、園での対応が難しい場合は、保護者に連絡して、迎えに来てもらうようにしていることを、「保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>
<p>食に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①食育だよりの配布。                  ②栽培、調理。                  ③食物の働きを知る(伝える)。</p>	<p>①年2回、栄養士が中心になり「食育だより」を発行していること、季節の献立や、身体に良い食材の案内、家庭で参考になる献立などを掲載していることを、「食育だより」や聴き取りで確認した。                  ②2歳児は枝豆、3歳児は二十日大根、4歳児はなす、5歳児はジャガイモを植え、収穫し、自分たちで料理をしていること、7月上旬に行う4、5歳児の「ワクワクナイト」というイベントでは、収穫したジャガイモを使って子どもたちがカレーを作っていること、4歳児は自分たちの栽培したなすを収穫し、なすのピザやみそ汁などを作っていることを、「2、3、4、5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。                  ③5歳児は昼食前に献立をみて、何の食材が入っているかを考え、身体のどこに良いか話し合っていることを、「5歳児保育日誌」や聴き取りで確認した。</p>

<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①連絡帳を利用、活動の掲示。                  ②個人面接、懇談会。                  ③登園降園時の保護者との会話。</p>	<p>①0、1歳児は、「育児ノート」や「連絡ノート」を使用して毎日、家庭や園の様子を記入して、保護者と連絡を取り合っていること、2歳児以降は、今日行った保育の様子をクラスの入り口に書き出し、保護者に見てもらっていること、また、散歩に行った時は、園外保育の様子を写真と保育士のコメントを一人ずつ載せ、大きな模造紙に貼り出していること、保護者からは大好評で、個別にほしいという声も聞かれていることを、「0歳児育児ノート」や「1歳児連絡ノート」などで確認した。                  ②個人面談は年1回11月に行っていること、懇談会は年2回5月と1月に行い、保護者同士で話し合いを行い、内容を発表してもらっていることを、「個人面談について」や「懇談会記録」で確認した。                  ③「保育士全体で一人ひとりの子どもをみる」という園の基本方針に沿い、登園降園時は自分の担当以外の子どもでも、今日の様子を保護者に伝えていることを、聴き取りで確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①見学の受け入れ。                  ②行事への参加の呼びかけ。</p>	<p>①入園のための見学の申し込みがあり、見学時に子育て相談も行っているが、地域で子育てをしている保護者が見学をすることは少ないことを、聴き取りで確認した。                  ②納涼会や誕生会への参加を地域に呼びかけているが、地域の子育て家庭に向けた呼びかけは、積極的には行っていないことを、聴き取りで確認した。</p>

### 3. 利用者への調査

#### ～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

##### (1) 調査の状況

調査期間	平成30年8月～9月
調査方法	所定の調査票(アンケート票)により実施した。
調査対象者の匿名化	調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。
アンケート調査票の配布	対象者には事業所を經由して調査票を配布した。
アンケート調査票の回収	記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。
回収の状況	調査票配布数 82通 : 返送通数 57通 : 回収率 69.5%

##### (2) 調査結果の傾向

###### ◆アンケート調査全体の傾向

- 項目別の回答状況では、「園での子どもの様子の報告」や「在園中の体調不良やケガの説明」、「園との十分な意見交換」、「インフルエンザなどの感染症の情報提供」、「防犯対策」、「緊急時の連絡体制」、「保育内容」、「子どもに対する職員の対応や態度」、「保護者に対する職員の対応や態度」、「子どもが楽しく過ごせている」などについて、8割以上の保護者が満足と回答し、高い満足が得られている。
- 一方、「園の保育方針」や「園舎内などの清潔面や安全面への配慮」、満足点でもあげられた「防犯対策」については、2割弱の保護者が知らない、心配と回答し、より一層の努力が期待されている。
- 「園の良いところ」として挙げられた意見(自由記述)は、90件にのぼった。その他の自由記述欄に寄せられた意見の中にも、肯定的な意見が6件含まれており、合計で96件の「良い点」についての意見が挙げられた。同じく「園に改善してほしいところ」として挙げられた意見(自由記述)は、59件だった。
- 個別意見では良い点として、「アットホームな雰囲気」や「職員の対応や挨拶」、「安心して任せられる」、「職員全体で子どもたちを見ている」、「子ども一人ひとりをしっかり見ている」などの意見が挙げられている。
- 保育内容では、「保育内容が充実している」や「散歩や外遊びが多い」、「異年齢の子どもたちとの触れ合い」、「イベントが豊富」などに、多くの意見が寄せられている。
- 一方、改善を望む点としては、「職員の対応や態度」や「園での子どもの様子や感染症などの情報提供が不足」、「延長保育の内容」、「オムツの持ち帰り」、「駐車場が狭く使いづらい」などの意見が挙げられている。園に改善を望む点について、具体的な内容が挙がっていることから、今後の取り組みの課題として位置付けることを期待する。